

# 倫理 第12回 「仏陀以降の仏教の展開」

## ○今回のポイント

### 1. 大乘仏教と上座部系仏教

#### 1-1. 部派仏教

仏陀死後、教団は分裂

↓

- ・ [① \_\_\_\_\_] … 仏陀の言行に忠実に従おうとする。
- ・ [② \_\_\_\_\_] … 仏陀の精神を重視する。

↓

さらに分裂し様々な派閥を形成→部派仏教

※ [③ \_\_\_\_\_] とは？

……修行を完成し、世の人の尊敬を受けるにふさわしい人物。上座部の理想像。

※部派仏教

仏陀の教えを解釈し体系化。仏陀の言行を解脱の方法とし、阿羅漢となることを目指す

#### 1-2. [④ \_\_\_\_\_]

○上座部仏教批判

従来の上座部仏教→自己の解脱しか考えない = [⑤ \_\_\_\_\_] → 上座部を「小乗仏教」として批判

○大乘仏教の理論

仏陀の言行の精神は、 [⑥ \_\_\_\_\_] (すべてのものの解脱を目指す慈悲。他者の救済)

↓

[⑦ \_\_\_\_\_] の救済を目指して修業する [⑧ \_\_\_\_\_] の在り方が理想。

- ・ [⑦ \_\_\_\_\_] … 生きとし生けるもの全てのこと。
- ・ [⑧ \_\_\_\_\_] … 慈悲(利他行)を実践する。自己の解脱より、世の人々に尽くす修行者。

↓

[⑨ \_\_\_\_\_] の立場に立ち、六波羅蜜の実践を通して、他者の救済と自己の悟りを目指す。

- ・ [⑨ \_\_\_\_\_] … すべて存在するものは固定的な不変の実体を持たないということであり、縁起を深化・発展させたもの。ナーガールジュナが空を哲学的にまとめた。
- ・ [⑩ \_\_\_\_\_] … 大乘仏教の求道者が実践すべき六つの徳目。

[⑪ _____]	他人に施しをあたえること。	精進	一心に修行にはげむこと
持戒	戒律を守ること	[⑫ _____]	精神を統一し、散乱させない
忍辱	恥辱や迫害を耐え忍ぶ	般若(智慧)	真実を悟って迷いをはなれる

1-3.【13】

【9】の思想で大乘仏教の教えを理論的に確立



【13】の主要思想	
【14】	すべての物事は、相互に依存しているだけではなく、それ自身として固定的に存在するのではないということ。
【15】 (五蘊皆空)	人間存在を構成する 5 つの要素は、いずれもそれ自体として独立した不変の実体ではなく、他のものに依存して存在するにすぎないということ。
【16】 空即是色	物質(色)は、それ自体固定化した不変の実体を持たない空である(色即是空)。同時に空は何も無い空虚ではなく、様々な条件・原因が集まり物質(色)として現象する(空即是色)。世界の様々な現象の中に生きながらも、それらを固定的なものともみて執着の対象としてはならない。



【13】の思想による影響→煩惱や苦行も固定的でない=凡人も仏に！！

→自己の悟りと他者の救済にへだてを設けない慈悲につながる

→すべての生き物に仏性（仏となる可能性）を認めることにつながる

1-4.【17】、【18】兄弟

○【19】…世界のすべての事物の実在性を否定し、もののあらわれは根源的な唯一の実在である心の表象に他ならないとする思想。

例

同じ川でも、ある人には清流とうつり、罪人には火の川としてうつる。



すべての物は心によって生み出された表象。

○【20】…唯識派の根本的原理。あらゆる現象を生み出す心の働き。

すべての外界の現象を阿頼耶識に転化し、万物が心の現われだと悟れば、迷妄の世界は消失する。

## 2.無差別平等の思想

人は誰でも生・老・病・死の苦悩 → 人間はすべて等しく救済される必要性



無差別平等の慈悲

○仏教の信者になるには？【21】の帰依を表明するだけ（…と清水書院の教科書にはある）

※【21】…仏・法・僧

※帰依…その神や仏などの教えを絶対に信じ、自分を任せること。

○希望すれば誰でも五戒を受け修行の道へ。

【22】（ふせつしょうかい）：生き物を殺してはならない

【23】（ふちゅうとうかい）：盗みをしてはならない

【24】（ふじゃいんかい）：性欲におぼれてはならない

【25】（ふもうごかい）：うそをついてはならない

【26】（ふおんじゅかい）：酒を飲んではいけない